資料５

「我が国の感染症対策のセンター機能の強化に向けた具体的方策についての研究」に係る進捗状況について（２年計画のうち１年目）

＊厚生労働科学研究（研究代表者：倉根一郎）

○　研究班の目的

・本研究班の目的は、近年増加している国際的に脅威となる新興再興感染症に適切に対応するために、我が国の感染症対策を推進することである。現在の体制での課題等を整理し、国立感染症研究所を中心とした体制強化について検討することとしている。特に国立感染症研究所が３庁舎に分散していること、戸山庁舎が築 26 年及び村山庁舎ＢＳＬ４施設は築 38 年を経過していること、地方衛生研究所とより強固な連携構築なども踏まえてセンター機能強化に必要な事項を研究する。

・平成３０年度は、海外ＢＳＬ４施設の分析や感染症対策の課題など、次の１～５について整理し、検討した。

１　より高度な管理が求められる病原体等の検査・診断体制の整備及び強化

・2014 年以降、一類感染症が非流行国で発生した事例（米国、英国、ドイツ、スペイン）においてＢＳＬ４施設が果たした役割等について分析した。

・海外のＢＳＬ４施設の立地や構造等の調査対象として、最近新たに整備されたフランスや英国、中国、米国のＢＳＬ４施設の機能、立地条件等の調査研究を開始した。次年度はこれらの施設の現地調査を含め、調査研究を進めることとした。

・世界保健機関（ＷＨＯ）が実施した日本の合同外部評価（Joint External Evaluation）の結果を中心にして、公衆衛生上の危機発生時の対応など、国際的な動向と日本の感染症対策の課題について検討した。

・国立感染症研究所と地方衛生研究所等間の連携、ネットワーク等の課題について検討した。

２　サーベイランス、データ分析・解析の高度化に関する研究

・現在運用されている感染症発生動向調査（NESID）のデータ分析・解析を行う上での課題を整理し、他のサーベイランスシステムとの連携等も考慮し、データ量の増加や解析手法の高度化など、疫学研究の強化について検討した。

３　薬剤耐性（AMR）研究の強化

・実地疫学専門家による薬剤耐性菌の院内感染調査事例を詳細に分析し、アウトブレーク発生後の対応等について検討した。

・院内感染対策サーベイランス（JANIS）と NESID との連携による解析など、薬剤耐性研究の強化について検討した。

４　ワクチン・血液製剤の検定・品質管理及び新規ワクチンの開発推進

・ワクチン等の品質管理に関係する研究の動向も踏まえ、国立感染症研究所に期待される役割を整理する。

５　国立感染症研究所の研究基盤の強化

・感染症疫学センターが担っている予防接種やサーベイランスに関する業務の増加、予防医学の推進を考慮した体制・基盤の構築について検討した。

・上記１の海外事例も参考にして、国内で一類感染症が発生した時の国立感染症研究所が果たすべき役割や課題等について検討した。

・レファレンス、技術研修、外部精度管理等について、国立感染症研究所と地方衛生研究所との連携等について検討した。

・国立感染症研究所の 3 庁舎分散と老朽化の課題を共有した。